

JAグループ山形

サクランボ雇用189人 サイト開設や広域求人奏功

JAグループ山形地域・担い手サポートセンターは、今年のサクランボ労働力確保の取り組み結果をまとめた。求人、求職者の間で雇用が成立したのは189人で、昨年より58人増えた。今年3月の求人ウェブサイトを開設して山形のサクランボへの関心を全国から引き寄せ、JAグループ沖縄と連携した季節作業員向けの求職者説明会など、広域的な求人活動が功を奏した形。大学生ボランティアの輪も広がった。

昨年比58人増

さくらんぼひがしね、てんどう、さがえ西村山、やまがたの主産地4人。これに対し、求職者

は329人（県外者は92人）だった。昨年の198人（県外者は41人）の約1.7倍に増えた。求人、求職者のマッチングの結果、労働条件な

どが合って雇用が成立したのは189人で、昨年の131人を58人上回った。県外からの求職者は57人で昨年の26人の倍以上に増えた。季節作業員として、沖縄県の製糖工場

で働いた神奈川県相模原市の28歳の女性を含め、被雇用者の年代は20〜70代と幅広い。このうち、全国求人ウェブサイトを通じたマッ

チングでは、県内、県外共に22人ずつの計44人の求職に対し、県外者11人を含む24人の雇用が成立した。県外からの求職者は、神奈川県や宮城、東京を中心に北海道から沖縄まで広い範囲に及んだ。

全国求人ウェブサイトを3月8日に開設。JAの無料職業紹介所がJAグループ山形のホームページで「おいしい山形で働きませんか」と求人情報などを発信している。開設から7月20日ま

で、サクランボ作業期間前後のサイトへの総訪問者（アクセス）数は2214人、総訪問回数は4802回に上る。

JAグループ沖縄と連携して3月に沖縄県で開いた労働力確保に向けた情報交換会や季節作業員向けの求職者説明会に加え、サイトを通じて山形のサクランボの労働力事情が関心を集め、求職者の増加、雇用へとつながったとみられる。

山形大学農学部とも昨年に引き続き連携し、外国人留学生を中心に河北町の農事組合法人などで助っ人として活躍。援農ボランティアも昨年からの仙台白百合女子大学に加え、新たに東北学院大学からも寒河江市に2日間、40人ずつが日帰りですぐに駆け付けた。

サクランボ労働力確保に向け、他の産地JAでも無料職業紹介所開設検討の動きがある。少子高齢化が進む中、サクランボ労働力の確保は日本一の産地維持のため大きな課題。県や産地市町、JAグループ、労働団体を含む「オール山形」であるこの手の対策に取り組んでいる。地域・担い手サポートセンターの秋葉定センター長は「交通や宿泊の問題など課題を整理しながら労働力受け入れの環境整備を図り、将来にわたって、より安定的な労働力の確保につなげていきたい」と話している。